

日本のものづくり現場を支えてきた高等専門学校（高専）出身者の活躍の場が広がっている。機械や電機などの製造現場にとどまらず、高度な技術や知識を生かして安全・安心を守る最前線に立つ。団塊世代の大量退職に伴う技能継承は企業の大きな課題。安全・安心も高専に任せる。

現場パワー 私がつなぐ



第1部 高い職業意識 ㊤

ANAホールディングス子会社で航空機の運航整備を担うANAラインメンテナンステクノロジの整備士、山田哲也さん（26）は2月上旬、成田空港から飛び立つ旅客機をいつもにも増して真剣なまなざしで見守った。空の安全を守る重責を日々、ひしひしと感じる。仕事は運航前後の旅客機の点検と整備。国家資格の1等航空整備士と社内資格を取得し、修理や確認作業に携わる。

航空整備「絶対安全」を求めて

命守る関門の自負



（仙台市）の旧機械工学科の出身。実習では熱で動かす「スターリングエンジン」も製作した。進学も考えたが、たまたま舞い込んだANAグループの求人。「チャレンジしなかったら一生後悔する」と飛びついた。

ANAグループ（仙台高専卒）

山田哲也さん

励んだ。「高専で培った手先の器用さが役に立った」が専門知識は乏しく、当初は航空専門学校出身者に後れを取って苦労した。「負けたくない」と同期や先輩に教えを請い、差を埋めていった。航空業界では高専出身者の整備士の採用が増えている。全日本空輸整備センター業務推進部の奥西武志担当部長は「飛行機に興味がある学生が多く、伸びるのも早い」と評価する。（高城裕太）

高専卒業生の主な就職先

化学	旭化成、花王、日本触媒、住友精化、大陽日酸
食品	サントリーホールディングス、日本たばこ産業、雪印メグミルク
電力・ガス	東京ガス、大阪ガス、関西電力
情報・通信	NTTドコモ、NTTデータ
電気機器	キヤノン、セイコーエプソン、京セラ、日立製作所
運輸	東日本旅客鉄道、東海旅客鉄道
機械	ファナック、フジテック、ダイキン工業、IHI
石油	JXTGホールディングス

（注）各高専が公表している卒業生の就職状況を基に作成



コマツ（都城高専卒） 中村龍太さん

教科書は相棒「応急処置」に生かす

工学思考わが灯台

「フィリピン・マニラにあるコマツのサービス拠点で所長を務める中村龍太さん（40）は時々、本日から「数学3」や「材」から「数学3」や「材」だった時も、迷わず現地に

「応急処置」に生かす。現場で「応急処置」ができるかどうかは目の前の仕事を止めたくない顧客にとってより重要だ。コマツでは関連会社も含め約680人の高専出身者が働く。休みなく建機が動く現場を駆け回る中村さんたちのような人材が、建機で世界2位のコマツの強さを支えている。（佐藤浩実）

設備改善「生産の最前線」支える



東レ（旭川高専卒） 中島秀樹さん

「本場に設備が動くか、現場で立ち会う時の緊張感が好き」。メキシコ・ハリスコ州にある東レの炭素繊維工場。中島秀樹さん（35）はメキシコ人を織る工程まで様々な設備設計を担ったメンバーの一人。「図面通りに設備の工事状況を確認する備が稼働するまでは分らない。現場でチェックすることが大事だ」と話す。東レでは全国の事業所に約10年間、合成繊維をつくるメンテナン業務など高専出身者が数多く働く。中島さんの上司の竹田勝一課長は「基本に忠実な仕事をしてくれる」と評価する。高専出身者には、ものづくりの技能継承を支える役割への期待もますます高まりそうだ。（遠藤邦生）

「地味にスゴイ」邁進

「世の中に貢献できる率が高くなるし、事故にもつながりかねない。高専時代の知識を設備の改善につなげてきた。」